

原 著

結核予防法により申請された「初期結核」
に関する研究（その1）

武 田 操

東京都板橋西保健所

受付 昭和 50 年 3 月 18 日

A STUDY ON PRIMARY TUBERCULOSIS CASES REGISTERED
AT HEALTH CENTRES

Misao TAKEDA*

(Received for publication March 18, 1975)

The actual status of primary tuberculosis cases registered at 17 health centres in Tokyo was investigated. Out of cases applying the subsidy for treatment expense of tuberculosis during the period from January 1950 to December 1972 to the above health centres, 179 cases with the diagnosis of primary tuberculosis were subjected to this study. These cases include all cases with the diagnosis of primary infection tuberculosis, hilar lymphnodes tuberculosis, pleurisy, and tuberculin positive conversion due to natural infection and cases with the diagnosis of pulmonary tuberculosis, cervical glandular tuberculosis and tuberculous meningitis who were applied the subsidy for treatment expense for the first time and were assumed to be within 3 years after primary infection. The subjects consisted of 95 male and 84 female, and approximately two thirds were less than 5 years of age.

Retrospective and prospective surveys including tuberculin testing, chest X-ray and previous history of BCG vaccination and tuberculin reaction were made on all cases to confirm the reliability of tuberculosis infection and the diagnosis of tuberculosis, and all cases were finally classified into the following 4 categories; group A: confirmed tuberculosis patients, group B: definite primary infection without manifestation of the disease, group C: primary infection was uncertain, and group D: not infected with tuberculosis. The results were summarized as follows:

- 1) The diagnosis made by attending physicians was as follows; pulmonary tuberculosis 37, hilar lymphnodes tuberculosis 44, pleurisy 6, cervical glandular tuberculosis 10, tuberculous meningitis 3, primary infection with normal chest X-ray 79.
- 2) Out of 179 cases, 34 were judged as group A, 61 as group B, 36 as group C and 48 as group D. The analysis was made according to the diagnosis made by attending physicians, and the results were as follows;
 - a) Among 37 cases diagnosed as pulmonary tuberculosis, 21 (57%) were classified as group A, 6 (16%) as group B, and 10 (27%) as group C.
 - b) Out 44 cases diagnosed as hilar lymphnodes tuberculosis, only 7 (16%) were judged as group A, 11 (25%) as group B, and the positive tuberculin reaction was not confirmed in the remaining 26 cases (59%).

* From the Itabashi-Nishi Health Centre, Tokyo 174 Japan.

- c) Among 19 cases with the diagnosis of pleurisy, cervical glandular tuberculosis or tuberculous meningitis, 4 (21%) was interpreted as group A, 3 (16%) as group B, and 12 (63%) as groups C or D.
- d) Out of 79 cases with the diagnosis of primary infection with normal chest X-ray, 2 (3%) were classified as group A, 41 (52%) as group B, 17 (22%) as group C and 19 (24%) as group D.
- 3) The above results indicate that the diagnosis of tuberculosis was valid in only 32%, and the validity was 52% among primary infection cases with normal chest X-ray.

緒 言

結核診査協議会において、結核予防法により申請されたもののうち、肺門リンパ腺結核として提出されたもののなかに、所見の疑わしいもの、また自然陽転、初期結核、初感染結核として提出されたもののなかに、非自然陽転者が相当数含まれていることを、日常経験してきた。

そこで、これら「初期結核」として出されたものを、溯及調査、追及調査をすることによつて、その信憑性を検討してみた。

結核予防法に基づく申告および医療公費負担の申請の目的は、適正管理および適正医療を通じて、感染源排除による結核まん延に対する予防効果の期待にあることは間違いない。また3歳未満児のツベルクリン自然陽転者に対する投薬が認められているが、これは胸部X線上異常を認められない場合は、3歳未満児であること、かつ結核に基づくと考えられる何らかの症状を伴うことが条件となつている。

以上の観点からいわゆる「初期結核」として、結核予防法に基づく医療公費負担の申請が保健所に提出された場合、上述のごとき法の精神に合致するものが、どの程度存在するか検討し、同時に感染源との関係、医療内容の適正度を調査し、「初期結核症」に対する本法律の適用条件の合理化に役立つ資料を作成する目的で本研究を行い、調査結果が出たので報告する。

研究 方法

1. 対 象

a. 昭和45, 46, 47年度の3年間に、結核予防法に基づき、公費負担申請(34条, 35条)が、東京都14保健所および3保健相談所に対し、はじめて行われたもののうち「初期結核」と認められたもの179例(男95, 女84)

b. 対象の選びかた

昭和45, 46, 47年度の新登録カードを再検討し(その年度の除外分も含む)主治医よりの申請時病名が、初感

染結核、初期結核、肺門リンパ腺結核、肋膜炎、自然陽転と記載されたもの全部、および肺結核、頸部リンパ腺結核、結核性髄膜炎、その他のうち、申請が初回でありかつ主治医がツ反自然陽転3年以内としているものを選び出した。

c. 年齢分布およびBCG歴(表1)

対象者179例の年齢は1カ月から19歳10カ月までであった。3歳未満62例(34.6%)、3歳以上5歳未満61例(34.1%)、5歳以上10歳未満43例(24.0%)、10歳以上15歳未満7例(3.9%)、15歳以上6例(3.4%)であった。

BCG接種は70.9%に確認され、その85.8%は1回接種であった。

2. 追及期間(表2)

X線写真所見を追及しえたものは179例のうち168例(93.9%)であり、その期間は2週間から3年4カ月で、平均1年2カ月であった。転出その他で追及しえなかつたものは11例(6.1%)であった。

ツ反を追及しえたものは179例のうち90例(50.3%)であり、その期間は9日から3年4カ月の間で、平均1年9カ月であった。追及しえなかつたものは89例(49.7%)であった。

3. パンチカードの作成

対象例ごとに、パンチカードを作成し、各項目ごとに必要に応じ、補足調査を行い記入した(学校、幼稚園、保育園、主治医、入院先き、その他に問合せ、溯及調査、追及調査を行った。また母子手帳、保健所における4カ月乳健、3歳児健診の管理カードのツ反、BCG接種の再点検等)。

4. 集計のしかた

a. 申請時および経過の胸部X線写真をできうるかぎり再確認に努め、X線写真を追及しえた168例のうち67例(39.9%)の確認を得た。

全例179例のうちX線写真未確認は112例であり、そのうちの82例は診査会の時点で所見なしとされていた(うち9例は自然陽転も否定されていた)。4例は菌確認および病理学的に結核と判断され、6例は途中で主治医

表1 年齢分布およびBCG既往歴

年齢総数		6カ月未満	6カ月以上1歳未満	1歳以上2歳未満	2歳以上3歳未満	3歳以上4歳未満	4歳以上5歳未満	5歳以上10歳未満	10歳以上15歳未満	15歳以上	計
		8	7	22	25	41	20	43	7	6	179
BCG接種回数	不明 なし 1回 2回 3回以上	8	4 3	6 16	8 16	3 24 5	3 15 2	4 4 27 5 3	1 6	1 2 1 2	10 42 109 13 5
BCG接種時期	6カ月以内 1年以内 2年以内 2年以上		2 1		3 4	2 1 5 21	1 1 3 12	2 4 5 24			7 10 32 78

表2 追及期間

レントゲンを追及しえたもの	168 (93.9%)	ツ反を追及しえたもの	90 (50.3%)
6カ月以内に追及したもの	42	6カ月以内に追及したもの	17
1年 "	47	1年 "	22
2年 "	56	2年 "	32
2年以上追及したもの	23	2年以上追及したもの	19
追及しえなかつたもの	11 (6.1%)	ツ反を追及しえなかつたもの	89 (49.7%)

表3 判定の規準 (申請179例について)

規	準	ツ反判断	最終判断
所見確認 (X線写真上。結核菌不明)	17		結核所見あり 34(19.0%)
所見確認 (病理学的)	1		
菌確認	16		
BCGなし → ツ反 +~卍	21	ツ反自然陽性 ツ反自然陽性 ツ反自然陽性	ツ反自然陽性 ツ反自然陽性 ツ反自然陽性
BCGあり, 不明 → 最終ツ反が卍または卍で, それが6カ月以上継続	18		
BCGあり, 不明 → 2段階以上ツ反強化	22		
最終ツ反が一または±のもの	15	ツ反陰性	結核否定 36(20.1%)
初めから一度も陽性なし	6		
BCGあり, 不明 → 卍または卍が+となつたもの	15	BCG陽性	結核疑問 48(26.8%)
BCGあり, 不明 → ツ反+~卍で経過のないもの (溯及, 追及ともに)	24	ツ反不明	
BCGあり → 最終ツ反+のもの	21		
BCGあり → +から卍となつたもの	3		

から非結核として病名変更された。残りの20例は診査会で所見ありとされ, そのうちわけは, 肺結核1例, 肺門リンパ腺結核9例, 肋膜炎3例, 頸部リンパ腺結核7例であつた (この20例は最終判断で結核確定5例, 結核疑問9例, 結核否定6例となつている)。

b. 判定の規準 (表3)

申請時病名に対する信憑性を検討するため, 判定の規準を想定し, 最終判断として, 結核確定, 結核否定, いずれとも判断不能の3群に大別した。

すなわちX線写真上および菌確認または病理学的に結核所見ありと判断されたもの, およびツ反自然陽性確定と判断されたものを, 結核確定と称し, X線写真上所見なく, ツ反陰性またはBCG陽性と判断されたものを, 結核否定と称し, X線写真上所見なく, ツ反自然陽性と確認できないものを, 結核判断不能と称した。

ツ反自然陽性確定としたものは, BCG接種なしでツ反が陽性となつたもの, BCG接種ありまたは不明で最終ツ反が卍または卍で, それが6カ月以上継続したもの

表 4-1 申請時病名と診査時病名と最終および総合判断

申請時病名	診査時病名	総合判断						
		結核性所見あり	所見なし					
			ツ反陽性確実 (結核感染確実)	ツ反陽性不確実 (結核感染不確実)	ツ反陰性確実 (結核感染否定)			
肺結核 37	肺結核 26	21	1	4				
	陽転のみ 8		4	3	1			
	結核否定 3		1	1	1			
肺門リンパ腺結核 44	肺結核+肺門リンパ腺結核 1	6	1					
	肺門リンパ腺結核 15		2	5	2			
	陽転のみ 24		1	7	10	6		
	結核否定 4		1	1	2			
肋膜炎 6	肋膜炎 6	2		2	2			
頸部リンパ腺結核 10	頸部リンパ腺結核 8	1	2	2	3			
	結核否定 2						1	1
結核性髄膜炎 3	結核性髄膜炎 2	1	1		1			
	結核否定 1							
計 100		32(32%)	20(20%)	29(29%)	19(19%)			
自然陽転のみ 79	肺門リンパ腺結核 1	1	41	16	15			
	自然陽転のみ 73					1		
	結核否定 5						3	2
計 79		2(2.5%)	41(51.9%)	19(24.1%)	17(21.5%)			
総計 179			結核感染確実	結核感染不確実	結核感染否定			
			95(53.1%)	48(26.8%)	36(20.1%)			

表 4-2 申請時病名と最終判断との関係

(X-P所見未確認のものの総合判断は主治医よりの病名変更および主治医以外の他機関で受けた断層その他の記載を参考にした)

[A] 主治医よりX線写真上肺結核ありとして申請されたもの 37

(1) 診査時胸部に異常所見ありと判断されたもの 26

申請時ツ反断	X-P追及有無	所見有無	最終ツ反判定				ツ反追及なし	総合判断					
			陽性確実	陽性不確実	陰性	所見あり		所見なし					
								ツ反陽性確実	陽性不確実	陰性			
陽性確実 10	X-P追及あり 10	所見あり(確認) 9	3			6	9	1					
		所見あり(未確認) 1										1	
陽性不確実 10	X-P追及あり 10	所見あり(確認) 7	1			6	7			1			
		所見あり(未確認) 1										1	
		TB 所見なし(病名変更) 2										2	
記載なし 6	X-P追及あり 6	所見あり(確認) 5	1			5	5			1			
		所見あり(未確認) 1											
(計)							21	1	4				

(2) 診査時胸部に異常なしと判断されたもの 8

申請時ツ反判	X-P追及有無	所見有無	最終ツ反判定			ツ反追及なし	総合判断				
			陽性 確実	陽性 不確実	陰性		所見あり	所見なし			
								ツ反 確	陽性 不確 実	陽性 不確 実	陰性
陽性確実 2	X-P追及あり 2	所見なし(未確認) 2	1			1	2				
陽性不確実 5	X-P追及あり 5	所見なし(確認) 1	1				1				
		所見なし(未確認) 4		1	1	2			3	1	
記載なし 1	X-P追及あり 1	所見なし(未確認) 1	1				1				
(計)								4	3	1	

(3) 診査時結核感染を否定されたもの 3

陽性不確実 2	X-P追及あり 2	所見なし(確認) 1	1				1			
		所見なし(未確認) 1		1					1	
記載なし 1	X-P追及なし 1	所見なし(未確認) 1				1				1
(計)								1	1	1
(総計)							21(56.8%)	6(16.2%)	8(21.6%)	2(5.4%)

[B] 主治医よりX線写真上肺門リンパ腺結核ありとして申請されたもの 44

(1) 診査時胸部に異常所見ありと判断されたもの 16

陽性確実 8	X-P追及あり 8	所見あり(確認) 4				4	4			
		所見あり(未確認) 4	1		2	1	2			2
陽性不確実 4	X-P追及あり 4	所見あり(未確認) 3	1	1		1	1	1		
		所見なし(未確認) 1		1				1		
記載なし 4	X-P追及あり 4	所見あり(確認) 1				1	1			
		所見あり(未確認) 2		1		1			2	
		所見なし(未確認) 1				1			1	
(計)							6	3	5	2

(2) 診査時胸部に異常所見なしと判断されたもの 24

陽性確実 7	X-P追及あり 7	所見あり(確認) 1				1	1			
		所見なし(未確認) 6	1	2		3	4		2	
陽性不確実 13	X-P追及あり 11	所見なし(確認) 2	1			1	1	1		
	X-P追及なし 2	所見なし(未確認) 9	1	1	5	2	1	3		5
陰性 1	X-P追及あり 1	所見なし(未確認) 1				1		2		1
記載なし 3	X-P追及あり 3	所見なし(未確認) 3	1			2	1		2	
(計)							1	7	10	6

(3) 診査時結核感染を否定されたもの 4

陽性確実 1	X-P追及あり 1	所見なし(確認) 1	1				1			
陽性不確実 2	X-P追及あり 2	所見なし(確認) 1			1					1
		所見なし(未確認) 1		1				1		
陰性 1	X-P追及あり 1	所見なし(確認) 1			1					1
(計)								1	1	2
(総計)							7(15.9%)	11(25%)	16(36.4%)	10(22.7%)

〔C〕 主治医よりX線写真上肋膜炎ありとして申請されたもの 6

(1) 診査時X線写真上肋膜炎ありとされたもの(結核性として) 6

申請時ツ反判	X-P追及有無	所見有無	最終ツ反判定			ツ反追及なし	総合判断			
			陽性 確実	陽性 不確実	陰性		所見あり	所見なし		
								ツ反陽性 確実	陽性 不確実	陰性
陽性 確実 1	X-P追及あり 1	所見あり(確認) 1				1	1			
陰性 1	X-P追及あり 1	所見あり(未確認) 1				1				1
記載なし 4	X-P追及あり 4	所見あり(確認) 1			1					1
		所見あり(未確認) 3		2		1	1		2	
(計)						2			2	2
(総計)						2(33.3%)			2(33.3%)	2(33.3%)

〔D〕 主治医より頸部リンパ腺結核ありとして申請されたもの 10

(1) 診査時頸部リンパ腺結核ありとされたもの(結核性として) 8

陽性 確実 3	X-P(胸部)追及あり 3	所見なし(未確認) 3	1	1		1		2	1	
陽性 不確実 3	X-P(胸部)追及あり 2	所見なし(未確認) 2			1	1			1	1
					1				1	
記載なし 2	X-P(胸部)追及あり 2	所見なし(未確認) 2			1	1	1			1
					1					
(計)						1	2	2	3	

(2) 診査時結核感染を否定されたもの 2

陽性 不確実 1	X-P(胸部)追及なし 1					1			1	
陰性 1	X-P(胸部)追及なし 1			1						1
(計)									1	1
(総計)						1(1%)	2(2%)	3(3%)	4(4%)	

〔E〕 主治医より結核性髄膜炎として申請されたもの 3

(1) 診査時所見ありと判断されたもの 2

陽性 確実 1	X-P追及なし 1				1	1(死)				
記載なし 1	X-P(胸部)追及あり 1	所見(胸部)なし(未確認) 1			1		1			
(計)						1	1			

(2) 診査時結核を否定されたもの 1

陰性 1	X-P追及あり 1	所見(胸部)なし(確認) 1		1						1
(計)										1
(総計)						1(33.3%)	1(33.3%)			1(33.3%)

[F] 主治医より自然陽転のみとして申請されたもの 79

(1) 診査時所見ありと判断されたもの 1

申請時ツ反 判	X-P追及 有無	所見有無	最終ツ反判定			ツ反追 及なし	総合判断			
			陽性 确实	陽性 不确实	陰性		所見あり	所見なし		
								ツ反陽 性確	陽不 确实	陰性
陽性不确实 1	X-P追及 あり 1	所見あり(確認) 1		1			1			
(計)						1				

(2) 診査時所見なしと判断されたもの 73

陽性确实 39	X-P追及 あり 38	所見あり(確認) 1 所見なし(確認) 18 所見なし(未確認) 19				1	1			
			7		4	7		14		4
			4	1	3	11		15	1	3
	X-P追及 なし 1					1		1		
陽性不确实 28	X-P追及 あり 28	所見なし(確認) 8 所見なし(未確認) 20				1	1	6	1	1
			5	3	4	8		5	11	4
陰性 2	X-P追及 あり 1 X-P追及 なし 1	所見なし(未確認) 1				1				1
						1				1
記載なし 4	X-P追及 あり 4	所見なし(確認) 1 所見なし(未確認) 3				1	1		1	
				1	1	1			2	1
(計)						1	41	16		15

(3) 診査時結核を否定されたもの 5

陽性不确实 2	X-P追及 なし 2					2			2	
陰性 1	X-P追及 あり 1	所見なし(未確認) 1			1					1
記載なし 2	X-P追及 あり 2	所見なし(確認) 1 所見なし(未確認) 1			1					1
						1			1	
(計)								3		2
(総計)						2(2.5%)	41(51.9%)	19(24.1%)		17(21.5%)

の、BCG 接種ありまたは不明でツ反強度が2段階以上強化したものであり、

ツ反陰性としたものは、最初からツ反が一度も陽性とならないもの、最終ツ反が陰性または疑陽性のものであり、

ツ反 BCG 陽性としたものは、BCG 接種ありまたは不明でツ反が卍または卍であつたものが+となつたものである。

ツ反不明としたものは、ツ反自然陽性确实でもなく、ツ反陰性、ツ反 BCG 陽性といえないものを全部ここへ入れた(これは BCG 接種ありまたは不明でツ反陽性だったが、その後ツ反の経過のないもの、BCG 接種ありでツ反の経過は一定でないが最終ツ反が+で終わっているもの、BCG 接種ありでツ反が+から卍となつたものである)

研究成績

1. 申請時病名と診査時および最終総合判断との関係 (表 4-1, 表 4-2)

主治医よりの申請時病名は、肺結核 37, 肺門リンパ腺結核 44, 肋膜炎 6, 頸部リンパ腺結核 10, 結核性髄膜炎 3, 自然陽転のみ 79 であつた。

a. 申請時病名と診査時病名との関係

申請時病名に対する診査会の判断に基づく、診断一致率は、肺結核 26/37 (70.3%), 肺門リンパ腺結核 16/44 (36.4%) (この 16 例のうち 1 例は肺結核合併であつた)、肋膜炎 6/6 (100%), 頸部リンパ腺結核 8/10 (80%), 結核性髄膜炎 2/3 (66.7%) であつた。申請時有所見群 100 例のうち 58 例 (58%) の一致率であつた。また診査時に結核を否定されたものは、肺結核 3/37 (8.1%) 肺門リ

ンパ腺結核 4/44 (9.1%)，肋膜炎 0/6 (0%)，頸部リンパ腺結核 2/10 (20%)，結核性髄膜炎 1/3 (33.3%) となっている。

申請時病名が自然陽転のみ群に対する診査会判断の一致率は 73/79 (92.4%) であり，診査時所見ありとされたもの 1/79 (1.3%)，結核否定されたもの 5/79 (6.3%) であつた。

b. 申請時病名と最終総合判断との関係

申請時病名に対する最終総合判断に基づく診断一致率

は，肺結核では，所見あり 21/37 (56.8%) で，その他は陽性確実(所見なし) 6/37 (16.2%)，結核疑問 8/37 (21.6%)，結核否定 2/37 (5.4%) となっている。肺門リンパ腺結核では，所見あり 7/44 (15.9%) で，その他は陽性確実 11/44 (25%)，結核疑問 16/44 (36.4%)，結核否定 10/44 (22.7%) となっている。肋膜炎では所見あり 2/6 (33.3%) でその他は結核疑問 2/6 (33.3%)，結核否定 2/6 (33.3%) となっている。頸部リンパ腺結核では所見あり 1/10 (10%) で，その他は陽性確実 2/10 (20%)，結

表 5 ツ 反 の 検 討

[A] 最終的に所見ありと判断した 34 例の検討

症例番号	B C G 歴			申請前ツ	申請時ツ	申請後ツ	診断名 (学会分類)			確認有無	菌検出	入院外来								
	有無	回数	接種時期				申請時	診査時	最終											
													陽性のみ	陽性のみ	最終					
1	なし	14		+	+	+	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	あり	(+)	入院								
2							Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	あり	(+)	入院								
3							Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	あり		入院								
4							陽性のみ	陽性のみ	Ⅲ	あり		入院								
5							H	H	H	あり		外来								
6							H	H	H	あり		入院								
7							Pl	Pl	Pl	あり	(+)	入院								
8							H	陽性のみ	H	あり	(+)	入院								
9							Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	あり	(+)	入院								
10							Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	あり	(+)	入院								
11							Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	あり	(+)	入院								
12							H	H	H	あり		入院								
13							H	H	H	あり		入院								
14							-	+			死亡	T B 性髄膜炎	髄膜炎	髄膜炎	あり	(+)	入院			
15	あり	BCG	1年以内		+	+		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	あり	(+)	入院							
16								Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	あり	(+)	入院							
17			1年~2年	++	+			Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	あり		外来							
18			1回	2年		+	+		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	あり	(+)	入院						
19									± ± ± ± ±	+	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	あり		外来				
20									+	+	陽性のみ	H	H	あり		外来				
21									+	+	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	あり	(+)	入院				
22									+	+	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	あり		入院				
23									+	+	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	あり	(+)	入院				
24									+	+	H	H	H	あり		外来				
25									14	以上		+	+		Hals	Hals	Hals		病理学(+)	外来
26															Pl	Pl	Pl		胸水(+)	入院
27															Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	あり		外来
28															±	±	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	あり
29									2回1	2年以上		+	+		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	あり		外来
30									3回2	1年~2年		+	+		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	あり		入院
31															2年以上	++	+	+	Ⅲ	Ⅲ
32			4回1	1年以内		+		Ⅲ							Ⅲ	Ⅲ	あり		外来	
33	不明	2		-	+		Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	あり		入院								
34							H	H	H		(+)	入院								

申請時ツ反：±8 (23.5%)，+12 (35.3%)，+0，不明 14 (41.2%)

表 5

[B] 最終的に陽性確実(所見なし)と判断した61例の検討

症例番号	B C G 歴			申請前ツ反	申請時ツ反	申請後ツ反	診 断 名		確 有 認 無	菌 検 出	入 院 来 入 外
	有無	回数	接種時期				申請時	診査時			
35	なし				卅		陽性のみ	陽性のみ	あり		
36					卅		陽性のみ	陽性のみ			
37					卅		陽性のみ	陽性のみ			
38					卅		H	H			
39					卅		陽性のみ	陽性のみ			
40					卅		陽性のみ	陽性のみ			
41					卅		陽性のみ	陽性のみ			
42					卅		陽性のみ	陽性のみ			
43					卅		陽性のみ	陽性のみ			
44					卅		陽性のみ	陽性のみ			
45	21			+	卅		Hals	Hals	あり		入院
46				卅		陽性のみ	陽性のみ				
47				卅		陽性のみ	陽性のみ				
48				卅		陽性のみ	陽性のみ				
49				- 卅 -		陽性のみ	陽性のみ				
50						H	H				
51						陽性のみ	陽性のみ				
52						陽性のみ	陽性のみ				
53				+	卅	H	H				
54				+	卅	陽性のみ	陽性のみ				
55	+	卅	陽性のみ	陽性のみ							
56	あり	BCG	1年以内3	±	卅	卅	陽性のみ	陽性のみ	あり		
57					卅	卅	H	陽性のみ			
58					±	+	陽性のみ	陽性のみ			
59					卅	卅	陽性のみ	陽性のみ			
60					+	卅	H	陽性のみ			
61					卅	卅	H	陽性のみ			
62					±	卅	陽性のみ	陽性のみ			
63					卅	卅	陽性のみ	陽性のみ			
64					+	卅	陽性のみ	陽性のみ			
65					卅	卅	陽性のみ	陽性のみ			
66	±	+	陽性のみ	陽性のみ							
67	±	卅	陽性のみ	陽性のみ							
68	±	卅	陽性のみ	陽性のみ							
69	あり	BCG	1回	+	卅	卅	陽性のみ	陽性のみ	あり		入院
70					卅	卅	陽性のみ	陽性のみ			
71					卅	卅	陽性のみ	陽性のみ			
72					卅	卅	陽性のみ	陽性のみ			
73					+	卅	陽性のみ	陽性のみ			
74					±	卅	陽性のみ	陽性のみ			
75					±	卅	陽性のみ	陽性のみ			
76					+	卅	H	陽性のみ			
77					+	卅	陽性のみ	陽性のみ			
78					±	卅	陽性のみ	陽性のみ			
79	±	卅	陽性のみ	陽性のみ							
80	38	BCG	34	-	卅	卅	陽性のみ	陽性のみ	あり		
81					卅	卅	陽性のみ	陽性のみ			
82					±	卅	Hals	Hals			
83					±	卅	H	TB 否定			
84					±	卅	陽性のみ	陽性のみ			
85					卅	卅	陽性のみ	陽性のみ			
86					卅	卅	陽性のみ	陽性のみ			
87					卅	卅	陽性のみ	陽性のみ			
88					卅	卅	陽性のみ	陽性のみ			
89					±	+	H	陽性のみ			
90	不明	2	1	±	卅	卅	陽性のみ	陽性のみ	あり		
91					卅	卅	陽性のみ	陽性のみ			
92					卅	卅	陽性のみ	陽性のみ			
93					±	±	陽性のみ	陽性のみ			
94	不明	2	1	-	卅	卅	陽性のみ	陽性のみ	あり		
95					卅	卅	H	H III			

申請時ツ反：卅17 (27.9%), ±28 (45.9%), +6 (9.8%), 不明10 (16.4%)

表 5

[D] 最終的に結核否定と判断された 36 例の検討

症例 番号	B C G 歴			申請前ツ反	申請時 ツ反	申請後 ツ反	診 断 名		確 有 認 無	入 院 来			
	有無	回数	接種時期				申 請 時	診 査 時					
144	なし			-	卅	-	H	H	あり あり あり	入院			
145				-	卅	- -	陽性のみ	陽性のみ					
146				-	卅	- ± - -	陽性のみ	陽性のみ					
147				-	卅	± -	陽性のみ	陽性のみ					
148				7	+	± ±	陽性のみ	陽性のみ					
149				-	-	- -	陽性のみ	陽性のみ					
150				-	-	- -	髓 膜 炎	結核否定					
151	あり	BCG	1年以内 2		卅	++	H	陽性のみ	あり	入院			
152				±	±	陽性のみ	TB 否定						
153			1年~2年	±	卅	±	陽性のみ	陽性のみ					
154				卅	卅+	H	陽性のみ	陽性のみ					
155				卅	++	H	陽性のみ	陽性のみ					
156			8	卅	+	陽性のみ	陽性のみ	陽性のみ					
157				+	++	H	陽性のみ	陽性のみ					
158				卅	+	陽性のみ	陽性のみ	陽性のみ					
159			1回		±	P/	P/						
160				+	-	陽性のみ	TB 否定	あり					
161			あり	2年以上	±	卅	-	陽性のみ			陽性のみ	あり	入院
162					卅	++	陽性のみ	陽性のみ					
163					卅	+	H	陽性のみ			陽性のみ		
164					+	卅	± ±	H			TB 否定		
165					± + -	+	± ±	Hals			Hals		
166							+	+			陽性のみ		
167	11	卅			+	+	陽性のみ	陽性のみ					
168	- - +				- ±	Hals	Hals						
169	卅	+				陽性のみ	陽性のみ						
170	卅	+				H	陽性のみ						
171	±		± ±	Hals	TB 否定								
172	BCG	1年以内 3		卅	卅卅 +	陽性のみ	陽性のみ	あり					
173		2回		卅	卅+	III	陽性のみ						
174		4		±		IV	結核否定						
175		2年以上 1	卅 +		+	P/	P/			あり			
176	BCG	1年~2年		卅	-	陽性のみ	陽性のみ	あり					
177	不	明 3	- +	卅	+	H	H	あり					
178			-	+	+	-	Hals			Hals			
179					±		H			TB 否定			

申請時ツ反：卅2 (5.6%)，±16 (44.4%)，5 (13.9%)，- or ± 4 (11.1%)，不明 9 (25.0%)

見群で 32/58 (55.2%)，自然陽転群で 41/73 (56.2%) であつた。

2. ツベルクリン反応の検討 (表 5)

最終的に，所見ありと判断された 34 例においては，申請時点のツ反は，卅が 8/34 (23.5%)，卅が 12/34

(35.3%)，+が 0/0 (0%)，不明が 14/34 (41.2%) となつている。

最終的に，ツ反陽性確実 (所見なし) 61 例においては，申請時点のツ反は，卅が 17/61 (27.9%)，卅が 28/61 (45.9%)，+が 6/61 (9.8%)，不明 10/61 (16.4%) と

なっている。

最終的に、ツ反陽性不確実と判断された 48 例においては、申請時点のツ反は、卍が 5/48 (10.4%)、卍が 13/48 (27.1%)、+ が 18/48 (37.5%)、不明は 12/48 (25.0%) であった。

最終的に、結核否定 36 例においては、申請時ツ反は、卍が 2/36 (5.6%)、卍が 16/36 (44.4%)、+ が 5/36 (13.9%)、- および ± が 4/36 (11.1%)、不明が 9/36 (25.0%) となっている。

結 論

いわゆる「初期結核」として、結核予防法に基づいて申請された 179 例のうち、最終的に結核患者確実と判断されたものは 34 例、ツ反自然陽性確実 61 例、結核否定 36 例、結核疑問は 48 例であった。これを主治医から申請された病名別に検討すると、

1) 肺結核患者として申請された 37 例中確実な結核患者と判明されたものは 21 例 (57%)、ツ反自然陽性のみ確認され、結核病巣を否定されたものは 6 例 (16%)、ツ反自然陽性さえ疑われたものは 10 例 (27%) であつた。

た。

2) 肺門リンパ腺結核として申請された 44 例は、最終的に確実な肺門リンパ腺結核と判明されたものは、わずかに 7 例 (16%)、ツ反自然陽性のみ確認され、結核病巣を否定されたものは 11 例 (25%) と判断され、残りの 26 例 (59%) はツベルクリン反応すら陽性と確認できない状況であつた。

3) 結核患者としての申請された他の 19 例は、結核病巣ありと判断されたものは 4 例 (21%)、ツ反自然陽転のみ確認され、結核病巣を否定されたものは 3 例 (16%)、ツ反自然陽性を疑われたものは 12 例 (63%) であつた。

4) 自然陽転のみとして申請された 79 例は、最終的に病巣ありと判断されたもの 2 例 (3%)、ツ反自然陽転のみ確認され、病巣なしと判断されたもの 41 例 (52%)、ツ反自然陽性不確実 19 例 (24%)、ツ反陰性確実 17 例 (22%) と判断された。

以上の成績から、結核患者として申請された病名の信憑性は、厳格に言えば、32% と判断され、自然陽転群では 52% 程度と判断される。